

水田たより 2月号

令和4年2月1日

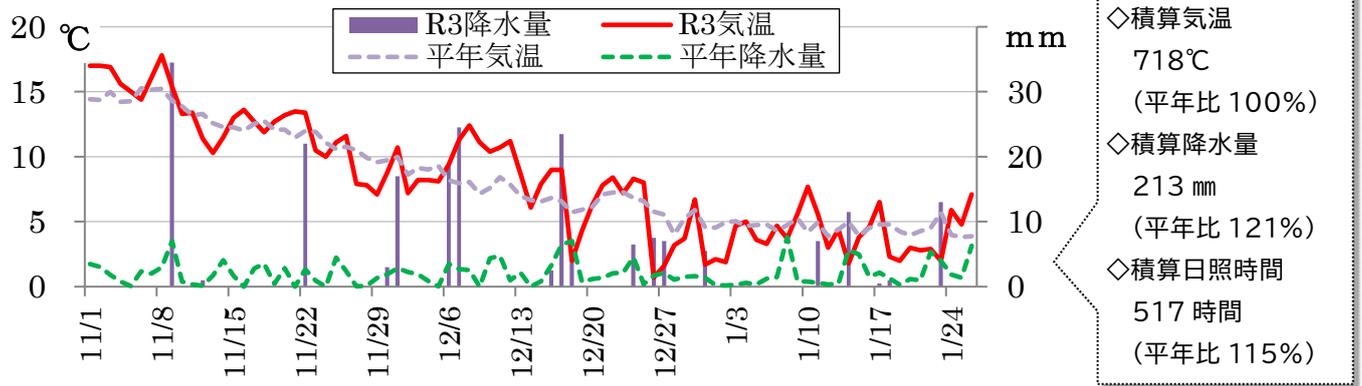
JA みえきた
桑名地域農業改良普及センター

気象概要と麦の生育状況

■気象概況

気温は平年並みとなっていますが、降水（降雪）量が平年より2割ほど多くなりました。今後は平年並みか平年より低い気温、かつ平年並みの降水量、日照時間で推移する見込みです。

（名古屋地方气象台1か月予報、R4.1.27発表）



■現在の生育状況(1月20日 生育基準田調査より)

さとのそら

平年と比較して茎数が少ないですが、言い換えれば過剰な分けつが抑制され、品質の良い小麦をとるチャンスです。積極的に追肥を施用し、穂数を確保しましょう。

あやひかり、ファイバースノウ

年末からの断続的な降雪の影響で麦の生育が停滞していますが、茎数は確保できています。特にあやひかりでは、タンパク質含量向上のための追肥をしましょう。

■麦の施肥管理

今後1か月は平年並みか平年より低い気温で推移する予報のため、生育が停滞する可能性があります。下記を参考に追肥を実施し、生育量を確保しましょう。

■基肥に緩効性肥料(麦エムコート35等)を施用した場合

小麦は、穂数確保のために2月中旬までに追肥をしましょう。

種類	時期	つなぎ肥	窒素目安量	施用量(オール14の場合)
小麦	2月中旬まで	未 or 無	2~2.5kg/10a	15~20kg/10a
		済	1.5~2kg/10a	10~15kg/10a

※大麦は、硝子粒による品質低下を防ぐため、2~3月の穂肥は施用しないでください。

■分施の場合

種類	内容	時期	窒素目安量	施用量(オール14の場合)
小麦・大麦	1回目の追肥 (穂数確保)	2月上~中旬 (幼穂形成期)	2~2.5kg/10a	15~20kg/10a
小麦・大麦	2回目の追肥 (登熟歩合向上・ 粒の充実向上)	3月中旬 (止葉抽出始期)	1.5~2kg/10a	10~15kg/10a

※大麦は、施用量が多かったり、時期が遅かったりすると、硝子粒の増加につながります。生育状況を確認しながら、適期に適量を施用しましょう。

くず麦対策

■3月追肥について

基肥に緩効性肥料を用いた場合でも、止葉抽出始期のみの追肥で一粒の充実が向上し、くず麦率が低下したという試験結果があります（右表）。

前作でくず麦が気になった方は、2月追肥に代えて3月追肥を実施しましょう。

注意点として、施用時期の遅れや施用量が多いと、タンパクが基準値を超えたり倒伏の恐れがあります。下表をご参考ください。

追肥窒素量 kg/10a	精子実重 kg/10a	千粒重 g
0	482	34.3
2	541	35.7
4	560	37.7

1割増

出典：石川県農業総合研究センター

■基肥に緩効性肥料(麦エムコート 35 等)を施用した場合の3月追肥について

種類	時期	つなぎ肥	窒素目安量	施用量(オール 14 の場合)
小麦	3月上～中旬	なし	2～2.5kg/10a	15～20kg/10a
		あり	1.5～2kg/10a	10～15kg/10a

■赤カビ病対策

赤カビ病被害にあった粒は、写真のように小さく、しわになります。被害に遭うと、くず麦が増加することで減収にもつながります。

開花最盛期（出穂期から7～10日後）に防除ができるよう、今のうちに機械のメンテナンスや薬剤の準備をしましょう。

なお、防除時期などの詳細は、水田たより4月号に掲載します。



出典：三重県農業研究所

今からできる畦畔除草

田植え前の除草時間がない 2～3月に余剰労働力がある

電気柵の下をしっかりと除草したい

田植え前の粒剤散布で草刈りの省力化ができます

■導入例

冬期～春前の
除草剤散布

農繁期や高温時の草刈りの回数を削減
侵入防止柵の周辺でも使用可能



12/30

散粒機で畦畔に処理
(3月上中旬まで)



2/1

散布なし 散布あり

処理層の形成により
新たな雑草の発生を抑制



4/4

散布なし 散布あり

長期間の抑草効果が期待

画像提供：
北興化学工業(株)
処理日：12/30
場所：姫路市

■上記の使用が可能な除草剤

薬剤名	適用場所	防除適期	使用量
カソロン粒剤 6.7	水田畦畔 (圃場内不可)	秋冬期～春期の 雑草発生前～発生始期	4～6kg/10a

3kgで幅1m
×500mの
散布が可能

- ・ヨモギやスギナ等の多年性雑草には効果がありますが、イネ科雑草には効果が劣ります。
- ・降雨や土質等の条件により、抑草効果や残効期間には差が見られます。
- ・一定期間、裸地化するため、周囲の農業者等との調整のうえ使用しましょう。